

# 令和2年度 第3回 地域生活支援部会 書面開催

令和3年3月29日  
東村山市障害者自立支援協議会  
第3回定例会【資料4】

## 設問 1

人材確保の取り組みについて、貴事業所の状況を踏まえ、地域（自立支援協議会）でできると良いと思うものを以下から選び、番号とその具体的な内容を記入してください。

① 合同面接会、就職説明会の開催

② 障害福祉サービス事業所のPRの場

③ 市民への周知

④ 求人情報の発信

| 番号      | 具体的な内容   |
|---------|--|
| ①       | <p>サンプルネ等で合同説明会や就職相談会を行う。各職種又は事業内容ごとが望ましい。時期は今ではなくコロナが落ち着くまでは先送りが望ましい。</p> <p>学生ボランティアや学生アルバイト等の面接・説明会なども良いと思います。</p> <p>福祉、医療系の学生を対象に、年1、2回（春、秋）ぐらいで大勢集まれる公民館などの公共施設で、市内の福祉事業所が各ブース（児童、福祉通所・入所、医療系、介護、相談等）に分かれて、学生が説明を聞ける場所を設ける。出入り自由。秋の開催には、面接会も同時に行えるようにする。高校生、大学生、社会人と対象は広く。</p> <p>市民向けに合同面接会、就職説明会を開催する際、未経験の方も受け入れたいので、「支援員になりたい」など具体的な希望ではなく、「働きたい」という人に大まかな希望の方向けに、本人の希望や条件を基にどんな福祉業種が向いているか、相談できるブースがあると良い。面接会など当日ではなく、事前相談会でも可。</p> <p>各法人などの独自性が比較しやすく、就職を考えている人への選択肢が広がると考える。市内の福祉関係施設を、市民センターなどわかりやすい場所で職種ごとにまとめて説明、面接会を実施したい。</p> <p>また、資料などもおいておき、興味のある事業所にその後も連絡できるようにしておくが良い。</p> <p>自前で開催できるのであれば、上記の例にあったような「公共施設などを会場として、通所施設・入所施設などの施設種別ごとか、介護職・看護職などの職種ごとのブースをつくり、合同面接会を開催する」がよいと思います。公的機関や民間で、すでに開催されているものがあれば、主催者と連携して、参加するという形でもよいのではと思います。</p> <p>福祉関係の求職者と出会うための「機会」の情報が得られるだけでも十分に助かるので、情報ネットワークのしくみ（部会共有/SNS活用/）がつかれないかとも思います。</p> |
| ①・②     | <p>地域での施設を知らない方も多く、市内の就職合同会で募集を見て就職に繋がった経緯が多くある。多摩六都などと協力し毎年1月頃（新年度で就職希望者が多いため）合同就職会を行ってほしい。</p> <p>資格取得済みの方で活用していない方向け研修を実施し、各事業所とのマッチングイベントを実施。</p> <p>各事業所のPRを行い、そこで働くために必要な研修会を実施する。</p>   |
| ①・②・③・④ | <p>応募者が少ないのには、仕事の内容があまり知られていないことも関係しているように感じます。広くし知ってもらう機会があればよいと思います。具体案はパッとしたものが出て来ないのですみません。</p>  |
| ②       | <p>東村山市の「市報」や「社協便り」に自立支援協議会のPRコーナーを作る。年に2回くらいでいいので、市内の福祉事業所のPRコーナーを掲載してもらう。</p>  |
| ③       | <p>どんな雰囲気の仕事なのかさらに支援員はどんな仕事をおしているかなどアピールします。</p> <p>さらに、支援員や看護師、ドライバーなど職員募集している情報を載せる。 詳細は以下の電話番号に問い合わせる仕組みとします。</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>市内にある福祉事業所が実際にどんな施設であるか、それを読むとわかるようにして、東村山市内の障害者福祉について市民に周知することにおいても効果的かと思います。</p> <p>「市民向けに、障害福祉サービス事業所や医療機関に従事するスタッフにフォーカスした記事を地域生活支援部会（自立支援協議会）で作成し、仕事内容、やりがい、市内で働ける場所の紹介等のPRを図る。」地域福祉の普及啓発や福祉職のイメージアップとして、良いのではと思います。</p>  |
| ②   | 福祉系、医療系等に学校に市内の事業所を紹介した広報誌を配布。広報誌の中に事業所の内容以外にも、   |
| ・   | 求人情報、行事のボランティア募集、実習先の紹介等も掲載する。  |
| ④   | <p>学校にお願いし、事業所の紹介させていただく場を設けてもらい、事業所のPRに直接出向く。インターネットを活用した、地域限定の求人情報の発信が出来ると良い。</p> <p>福祉の現場においては、求人の情報の収集が難しいので、法人などに情報を提供してほしい。市民向けに、地域にどのような事業所があるのか、どのようなことをしているのかを知ってもらうために紹介やPR・求人等の情報誌を作成する。</p> <p>福祉に関心のある人が、気軽に問い合わせができるよう職種や事業所の場所（地域）ごとにまとめて求人広告を作製し、発信できると良い。</p>  |
| ③   | <p>事業所の紹介、行事等を掲載した広報誌を定期的に発行し、配布する。</p> <p>市民が訪れ目にしやすい場（公共施設、お店、駅、銀行、病院等）に各事業所の情報や求人等を掲示させていただく。</p> <p>市民への周知や求人情報を発信する際、未経験の方向けにどんな業種があるのか。グループホームの世話人とはどういう仕事をするのか、など具体的な情報を発信してほしい。</p> <p>人が集まるところに福祉職の仕事内容を掲示する、求人情報を配布する際に一緒に掲載するなど、未経験の方向けのアピールをお願いしたい。地域性を意識した取り組みにつながる。</p> <p>障害分野に関わっている方だけでなく誰もが手に取りやすく、市民の方にも興味を持ってもらえそうな、障害に対する知識や各事業所の役割、やりがいなどをまとめた冊子を作成し、市民の方に配布。</p> <p>現在の流行を参考にして、アニメ等の挿し絵を入れてみてもいいかもしれません。</p> <p>市民を対象にした資格が取れる研修会などを開催し、そこから人材確保にもっていくことはできないでしょうか？</p> |
| ③・④ | 現在作成中の事業者一覧を求人情報誌目的に修正して発行する。（マッチングイベントや講習会などで配布）   |
| ④   | <p>第1回で配布していただいた市報の一部『福祉の分野で働いてみませんか』のコメントや現場の声を載せた求人情報の掲載。</p> <p>また、市内だけでなく近隣地域への求人の発信。</p> <p>現在は、情報発信時代なので、求人情報をインターネットなどで気軽に検索できるような発信が出来れば良いのではと思います。今で言うならindeedなど。</p> <p>医療系・福祉系の大学や専門学校など、資格取得や専門的な学習をしていると見込まれ、かつ若年層がいる場所に、ピンポイントに求人募集がかけられるとよいと思います。学内掲示や、学祭などの参加、イベント開催等が考えられると思います。学内の就職支援課とか学生支援課とかとの連携などができるとよいのでしょうか、詳しくわからないのですが。</p> <p>役所や事業所などにスペースを設け求人情報の掲示板（ポスターなど）を設置する。</p>   |



|   |  |
|---|--|
|   | <p>・事例検討会の開催…障害の理解は事例検討がもっとも有効だと考えます。できれば、多職種でグループを形成し、検討を重ねることが力になると思います。管理者でも生活支援員でもどんな人でも参加してよいということにするとよいと思います。</p> <p>・精神科医の話し、臨床心理士の話しなども効果的かと思えます。小平市の自立支援協議会ではセンター病院（国立精神神経研究センター病院）の精神科医が自立支援協議会の定例会に参加されているのを見かけたことがあります。</p>  |
| ③ | <p>・保護者向けに薬についての理解を深める説明会を開催してほしいと思います。</p> <p>その他「発達障害と服薬」といったテーマで理解を深めることも必要かと思えます。</p>  |
| ③ | <p>精神分野の支援として、リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメント等の概念や実践の勉強。支援のスキルアップに繋がるような事例検討会やスーパービジョン。</p> <p>事例検討会やスーパービジョンについては、それらについて勉強し、どうしたら実際に役立つのか、ということ時間をかけて学んだ上で行うとよいのではないかと思う。</p> <p>支援に困難を要した過去のケースなどを、色々な職種が集まって様々な視点から支援計画を立てたり、ストレングスを探すなどの研修会もいいかと思えます。</p> <p>障がい者虐待防止と権利擁護などの研修会を開催</p> <p>高齢者・知的・身体・精神の福祉事業所、医療機関の垣根を超えた事業所紹介、利用方法やサービス内容、法制度上の説明などの説明研修会があると良い。</p>   |
| ④ | <p>東村山市内の福祉サービス事業所を対象とした現場職員（特に責任者もしくは経験年数豊富なベテラン）の情報交換の場があると良い。その事業所が感じている課題、東村山市内の福祉サービス利用状況、困難ケースなど地域全体の状況を共有できる機会があると良い。目安は半年に1回（上期と下期に分ける）。</p> <p>課題を知ることで所属している事業所が何をできるのか検討できるきっかけになると良い。</p> <p>情報交換の場を、階層別・入職年数別で提供してほしいと思います。</p> <p>経験年数や職種別でネットワークができればよいと思いますので、情報交換会や、東村山市精神保健福祉ケア検討会でやっている飲み会的なものがあるとよいと思います。研修会などにくっつける感じでしょうか。</p> <p>年代や経験年数の異なる現場職員が集まって、普段どんな事で困っているかなどの情報交換会も有意義だと思います。異なる年代や経験年数によって知識や視点も異なりますし、普段学べないことが学べるかと思えます。</p> <p>福祉関係の現場の職員で集まり、現場の状況・課題など、広い視点でフランクに話し合い、情報交換が出来る場があるとよい。</p> <p>支援者支援が必要であると言われている。支援に対するモチベーションを保ち続けるにはどうしたらよいか、などについても話し合えるとよいのではないか。</p> <p>私は単なるヘルパーをしていた時に社協で他事業所のヘルパーさん方を集めて、定期的にグループワークをしていることがありました。同様に、障害の方でも生活支援員が事業所に関係なく集まれて、情報交換できると、いい事ばかりではないかもしれませんが、ほっとできると思います。他事業所の方の意見を聞くことが出来るのもいい経験になると思います。</p> <p>また、他法人の方々と行き来してお互いのよい所を学び合えるような試みがあってもよいかと思えます。それぞれのよい所を学び合うことで全体として東村山市の福祉の水準が向上していくことを望みます。</p> <p>現場職員の情報交換（支援サービス別）</p> <p>障害者が介護に移行又は併用するときの留意点や対応</p> <p>障害者総合支援法の目的と仕組み（利用者に説明できるようにする）</p> |

|   |
|---|
| 「合理的配慮」したケースの情報交換（お互いの参考）   |
| 現場の職員を含めたスタッフ同士のつながりが、連携や協同の強化につながると思います。具体案はパツとしたものが出て来ないのですみません。                          |
| 同じ職種や利用者の対象が同じ事業所ごとに各事業所が集まり、定期的に情報交換会を行える場を定着させる。年度ごとに世話人（数名）を決め、持ち回りで各事業所で開催する事業所の見学も兼ねて。 |
| 経験が浅い職員の離職を防ぐため、障害者と関わる基本的な部分 接し方やケース事例など「わからない不安」を減らせる内容で開催してほしい。                          |
| 経験年数が近い同士で地域の他団体に知り合いが増えるのも将来的に地域の福祉ネットワークづくりに役立つ。  |
| 相談支援事業所は、少人数で事業展開しているところが多いので、定期的な事例検討会を多く開催してほしい。  |
| 又、グループホームも同様、情報交換の場を設けて欲しい。   |
| 他施設の活動や取り組み等、知り得る機会があると良い。  |
| 実は現状他事業所ではどのようにやりくりしているのかなどの情報交換の場があると良い。   |
| ご利用者様等の情報交換ではなく、事務的な向上や兼務スタッフのやりくり等、仕事面での効率をはかるノウハウがあれば教えて頂きたい。                             |

## その他

設問1～2について入りきらなかった場合や、回答の補足、資料にない新たな意見などありましたらご記入ください。

| 具体的な内容   |
|--|
| スーパーバイザーとして意見を言える方をお招きして是非、「事例検討会」を開催してほしいと思います。                                     |
| 今後、地域包括ケアの推進なども今回の制度改正内容に入っています。   |
| 自立支援協議会としても3障害の区別なくまた高齢と障害の区別なく、是非多角的な方面が盛り込まれている事例検討会をお願いします。                       |
| 医療との連携なども視野をお願いします。  |
| 設問2-③ リカバリーなどの概念は、精神分野のものではあるが、他障害や高齢の支援者にも有意義なものであると思う。一緒に学べるとよいのではないか。             |
| また、事例検討会やスーパービジョンは、支援の質を上げるためには、必須のものである。目的や進め方について学ぶところからはじめ、継続的に実施出来るようになるとよいと思う。  |
| 先進諸国での実践—オープンダイアログなど—の学習も、支援者にとって有益なものとなると思うので、行えるとよい。                               |
| 設問2-④ 現場の職員の情報交換の場としては、ある程度長時間のグループワークで、途中メンバー交代を行うなどの工夫で、何でも言い合えるような空気が出来るとういのかと思う。 |
| 「地域生活支援拠点等の好事例集」を見ても、人材育成のための研修などはみられますが、人材確保となると事例がみあらず、難しいのだと感じました。                |